

権利擁護・成年後見制度論

[講義] 第2学年～第3学年 前期 選択 2単位

《担当者名》佐久間 仁 (非常勤講師 office-sakuma@utopia.ocn.ne.jp)

【概要】

この授業は、社会保障制度や社会福祉制度の利用に関して、「法律」という観点からの知識を整理するための時間となる。はじめに、「契約」に関する基礎知識を学んだ上で、判断能力が不十分な人を支援するための重要な仕組みである「成年後見制度」に関して、その目的、利用手続、種類を学ぶ。

また、相談援助を行う者の知識として必要となる、民法（主に親族法や相続法など）や行政法（特に行政救済法）、社会福祉関連法の基礎的知識を身につけることを目指す。

【学修目標】

1 一般目標

成年後見制度を理解する。
権利擁護を支える法制度を整理する。

2 行動目標

成年後見制度について、次の内容を説明できる。
成年後見制度の全体像（創設の背景や目的など）
法定後見制度と任意後見制度の違い
成年後見制度の利用手続き
法定後見制度による支援内容（類型による違い）
成年後見制度による支援内容の具体的事例
成年後見制度に関連する仕組み（日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業など）
意思決定支援の原則
契約に関する基礎的事項を説明できる。
親族法の基礎的事項を説明できる。
相続の仕組みや遺言制度の基礎的事項を説明できる。
クーリングオフやその他の消費者保護の仕組みについて説明できる。
不服申立てと行政訴訟について、その違いと優先関係について説明ができる。
行政手続法の規定事項の概要を説明できる。
虐待の防止に関して、どのような法的整備がなされているかを説明できる。
個人情報保護法の目的と規定事項の要旨を説明できる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

【実務経験】

社会福祉士・特定行政書士・社会保険労務士

【実務経験を活かした教育内容】

行政職員や特定行政書士、社会保険労務士としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。